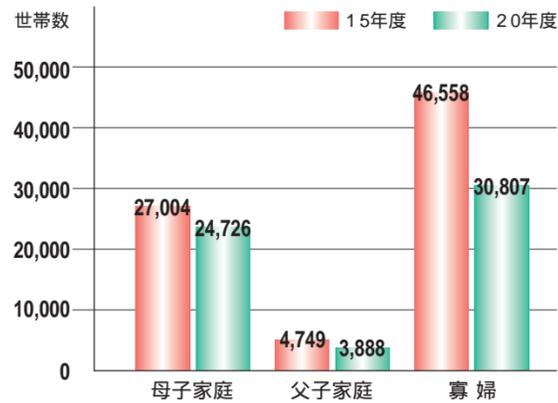


# 2 ひとり親家庭等の状況

平成20年9月実施 「名古屋市ひとり親世帯等実態調査」より

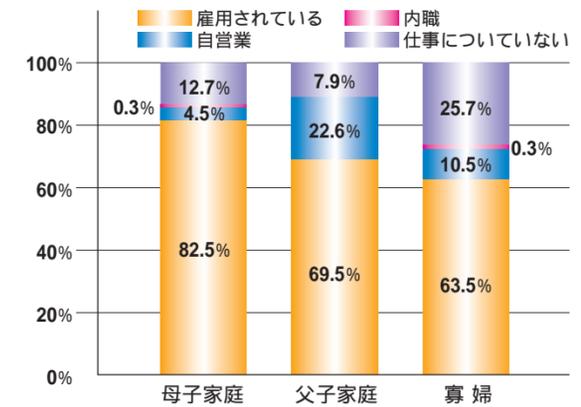
## 1.ひとり親家庭等数の推移

本市におけるひとり親家庭等の推計世帯数は、調査を始めた昭和53年度以降一貫して増え続けてきましたが、今回の調査の結果、母子家庭が24,726世帯、父子家庭が3,888世帯、寡婦が30,807世帯と、いずれも平成15年6月の調査(以下「前回調査」といいます。)に比べ減少しています。



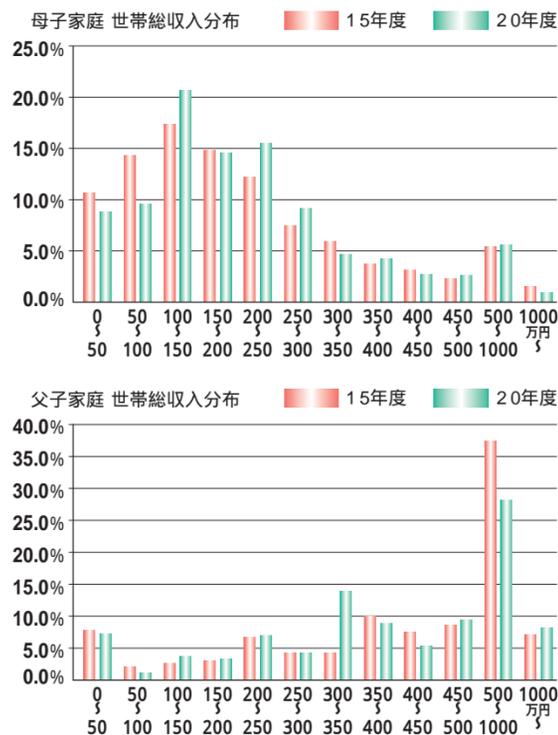
## 3.就業率

実態調査時点でのひとり親家庭の母等の就業率は、母子家庭で87.3%、父子家庭では92.1%、寡婦では74.3%と、いずれも前回調査から増加しています。しかし正規雇用の割合は父子家庭が88.5%であるのに対し、母子家庭は39.4%、寡婦は48.5%であり、母子家庭及び寡婦にとっては、パート・アルバイトなどの不安定な雇用形態が多くなっています。



## 2.収入

母子家庭の平均年収は227.3万円と前回調査と比較すると2.1万円増加しています。しかし、一般世帯の平均年収566.8万円(平成19年国民生活基礎調査による)と比較すると4割程度にとどまっており、87.1%の人が「家計が苦しい」又は「やや苦しい」と感じています。一方、父子家庭の平均年収は482.1万円と、母子家庭と比べると高い水準になっていますが、前回調査と比較すると29.1万円減少しており、一般世帯の平均年収の9割程度であり、66.2%の人が「家計が苦しい」又は「やや苦しい」と感じています。



## 4.ワーク・ライフ・バランスの悩み

ワーク・ライフ・バランスで悩みに感じていることの問いに対しひとつでも回答したひとり親家庭は約8割(母子家庭78.3%、父子家庭77.8%)に達し、その内容はひとり親家庭が仕事と生活(子育て)を両立させることの難しさを表しています。

